

# 課題および基本理念(案)

## 目次

<b>1. 地域公共交通の課題</b> .....	<b>1</b>
(1) 現況把握に伴う課題の抽出 .....	1
(2) 課題の整理 .....	2
<b>2. 日向市地域公共交通計画策定に係る基本方針</b> .....	<b>5</b>
(1) 基本理念(案) .....	5
(2) 基本方針(案) .....	5
<b>参考資料(実施事業の事例)</b> .....	<b>6</b>

令和4(2022)年 11 月  
日向市地域公共交通会議



# 1. 地域公共交通の課題

## (1) 現況把握に伴う課題の抽出

### 日向市の現状

- 人口及び世帯数はともに減少傾向。(人口 58,927 人、世帯数 25,084 世帯 (R3.10.1 時点))
- 年少人口と生産年齢人口は減少であるが老年人口は年々増加しており、国や県よりも高い高齢化率となっている。(高齢化率 33.5% (R3.10.1 時点))
- 代表交通手段として 8 割以上が自家用車利用。(R2 国勢調査)
- 通勤通学流動では、延岡市と門川町との連絡が多い。(R2 国勢調査)
- 路線バス利用者・市民バス利用者ともに減少傾向。観光客数も新型コロナの影響により減少。
- 市財政負担額は年々増加傾向。

### 市民のニーズ把握

#### 「市民アンケート調査」

- 運転免許保有率は約 8 割、非保有者は約 2 割となっており、比較的東郷エリアにおいて免許を持っていない方が多い。
- 日常の買い物・通院時の移動手段として、自家用車への依存がうかがえる。
- 公共交通を使いたくても使えない方が一定数存在している。
- 公共交通で救うためのラストワンマイル等の整備・見直しとして、交通弱者を減らす施策を講じる必要がある。
- 日常的に公共交通を利用している方は、鉄道で 2%程度、路線バスで 1%程度、市民バスで 10%程度、タクシーで 3%程度と非常に少ない。
- 今後の方向性として、「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」が最も多い意見。
- 効果的な取組として、「行きたい場所を通る路線の設定」、「増便や運行時間帯の拡大」、「1 回の利用でワンコイン、共通乗車券等のわかりやすい運賃の設定」が主な意見。

#### 「公共交通利用者調査」

- 鉄道利用者の特性として、10 歳代の市内居住者による利用が多く、主に「通学」目的として利用されている。
- 鉄道駅までの端末交通手段として、公共交通からの乗継利用者は全体で 5%程度であった。
- 路線バス利用者の特性として、70 歳以上の市外居住者による利用が多く、主に「通院・買い物」目的として利用されている。
- 市民バス利用者の特性として、70 歳以上の市内居住者による利用が多く、主に「通院・買い物」目的として利用されている。
- ぶらっとバスおよび南部ぶらっとバスは、若い層の「通勤・通学」目的としても比較的利用されている。
- 乗合タクシーほそしま利用者の利用目的は、「買い物」「通院」となっている。

#### 「交通事業者アンケート調査」

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、外出自粛・リモートワークの普及等による利用者が減少している。(全体)
- 乗務員の不足や高齢化。(バス・タクシー)
- タイヤの見直し、総合公共交通マップの作成等の対策が必要。(バス)

#### 「高校生アンケート調査」

- 登下校時の交通手段では「自転車」「鉄道」の割合が多くなっているが、雨天時になると「家族等による送迎」へ転換している。
- バスを利用しない理由としては、「バイクや自転車、徒歩で移動しているから」が大半を占めているが、「利用方法がわからない」といった声もある。
- 今後の利用促進策としては、「わかりやすい運賃制度」が主な意見。

#### 「関連事業者アンケート調査」

- 自宅からバス停までの距離が遠く、利用が難しい。(社協)
- 主要施設を結ぶ公共交通の整備を求む。(商工会)
- バスロケの導入を希望。(障がい者団体)
- 観光客をターゲットにした交通手段の開発も必要。(観光協会)
- 送迎サービスの実施は少ない。(商業・医療)

### 上位関連計画

- 第 2 向日向市総合計画後期基本計画
- 日向市都市計画マスタープラン
- 日向市立地適正化計画
- 日向市ポストコロナ観光戦略
- 日向市東郷地域振興計画
- 日向市過疎地域持続的発展計画
- 日向圏域定住自立圏共生ビジョン

### 地域公共交通の課題

① 高齢化の進展に伴う高齢者等の移動手段の確保

② 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化

③ 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築

④ 各公共交通機関の相互連携による利便性の向上 (MaaS の推進)

⑤ 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

## (2) 課題の整理

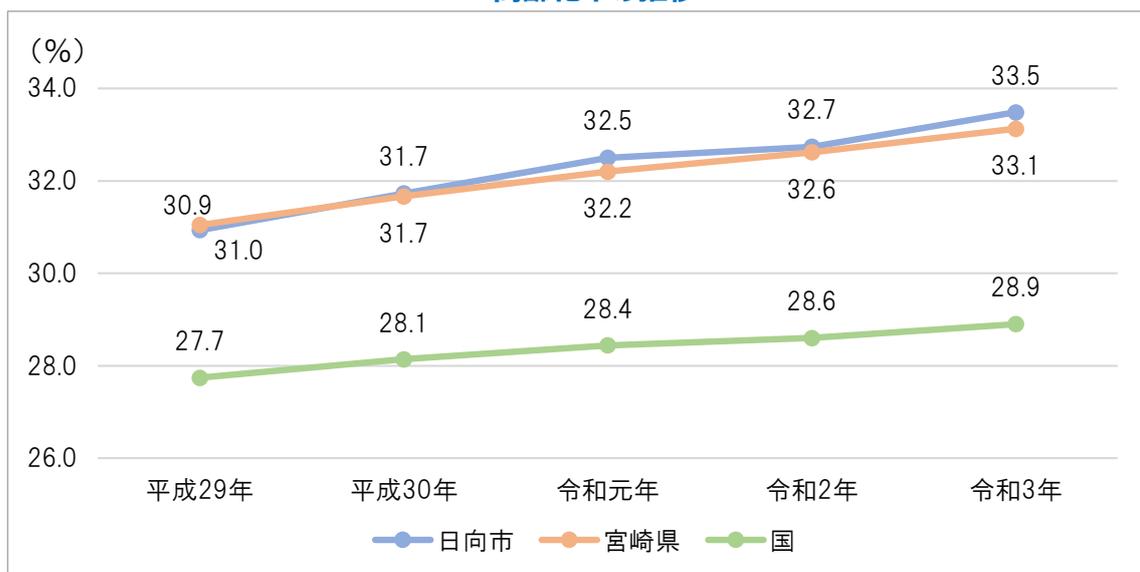
各課題の詳細については以下のとおりである。

### 【課題①】高齢化の進展に伴う高齢者等の移動手段の確保

本市の高齢化率は 33.5% (R3.10.1 時点) と増加傾向であり、将来的にも高齢化の進展が懸念され、高齢になっても自家用車を手放せず移動に不安を抱える高齢者が増加する可能性があることから、公共交通の見直し及び充実により、高齢者や障がい者等の移動手段を確保する必要がある。

また、公共交通を充実させることで自家用車利用を抑制し、免許返納の促進や事故防止、また環境負荷の軽減に寄与できる。

■ 高齢化率の推移



※各年 10月1日現在

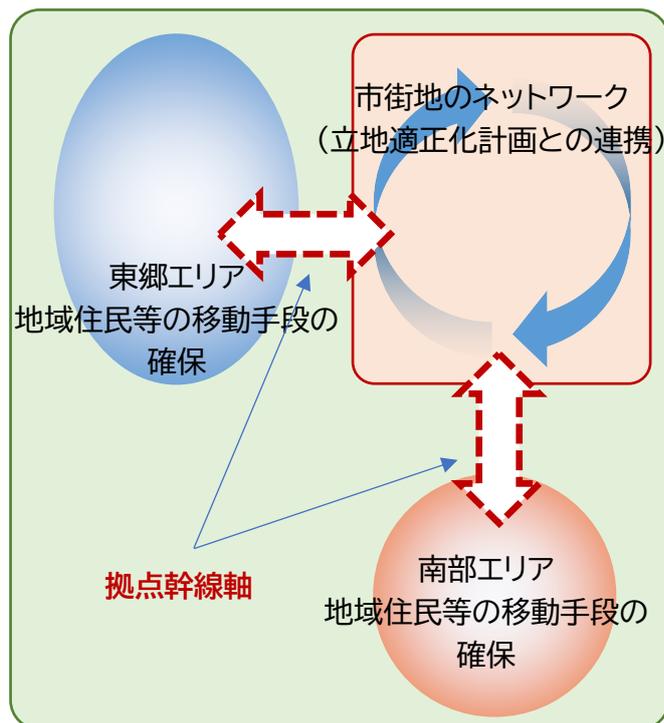
■ 運転に関する考え方



## 【課題②】市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化

令和3年に策定した立地適正化計画では、市全域のコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を示しながらも、計画の対象としては都市計画区域内となっており、主に市街地における居住誘導とネットワークの関係性を示している。

一方で、美々津や東郷といった都市計画区域外の地域住民・来訪者の移動手段が課題であり、コンパクト・プラス・ネットワークを実現するためには、本計画と立地適正化計画の両輪で、取り組んでいく必要があり、市全域のネットワークを構築することで、日向市版の真のコンパクト・プラス・ネットワークを目指すことが重要である。



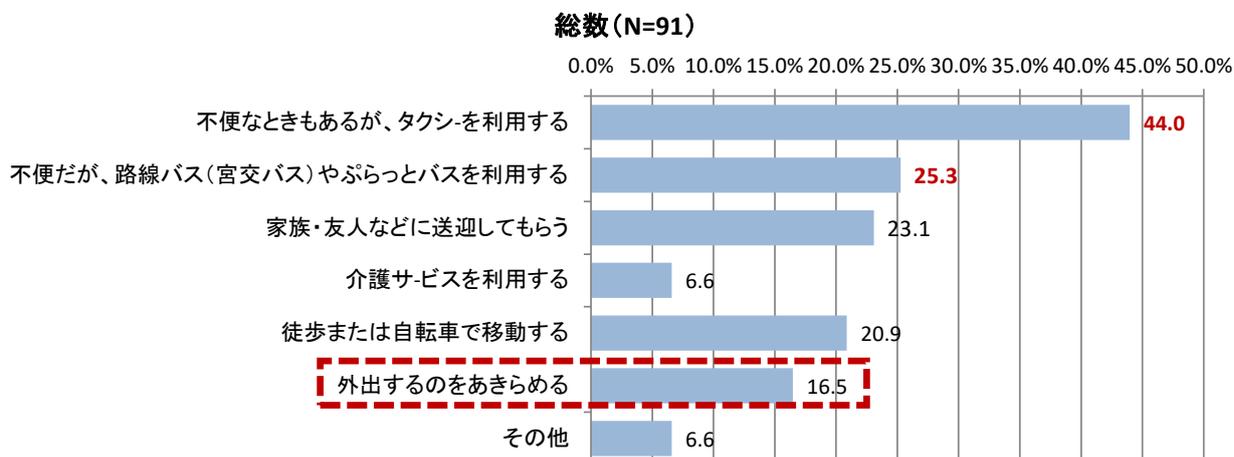
## 【課題③】地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築

市内を3つのエリアで区分した際に、人口が集積しているエリアや高齢者が多いエリア等、異なる特性があることから、公共交通利用における地域ごとの特性や課題の整理および利用ニーズの把握をしたうえで、最適な手段を構築することが重要である。

既存路線として、鉄道、高速バス、路線バス、市民バス、タクシー等により、公共交通サービスエリアは全市的に広がっているが、週に1～2日のみ運行をしている乗合バスもあり、公共交通不便地域は存在している状況である。

このような現状カバーできていないエリアに対しては、デマンド交通の導入や地域輸送資源の総動員等、新たな公共交通サービスを検討し、移動困難者を救う取り組みが必要である。

### ■ 移動手段がない時の対処法

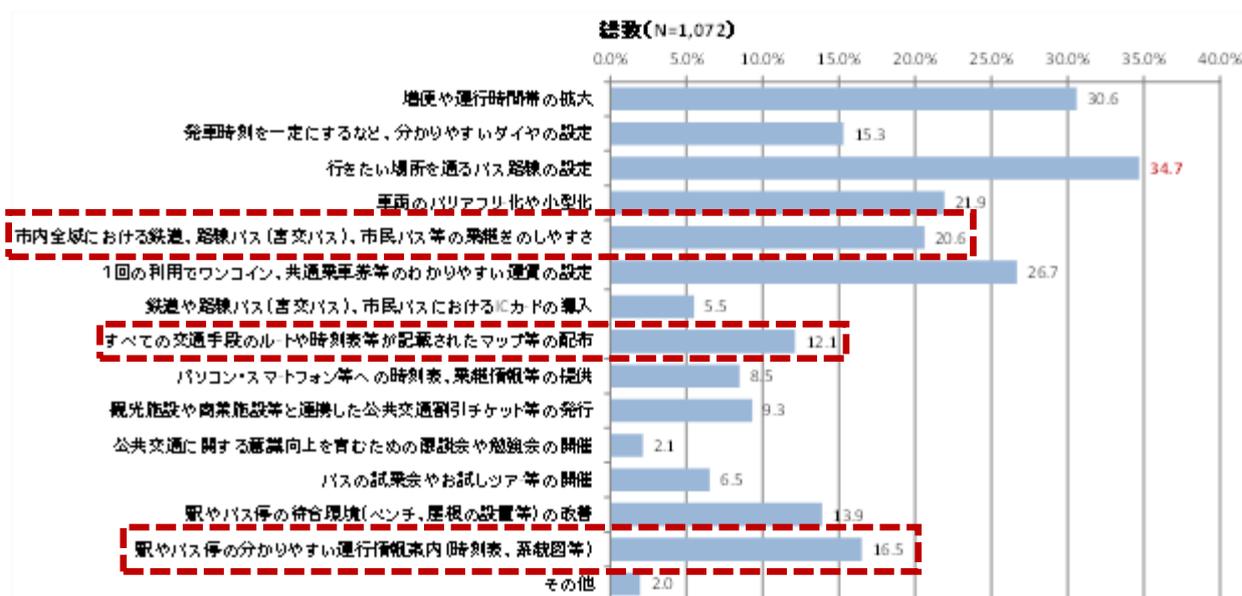


## 【課題④】各交通機関の相互連携による利便性の向上（MaaSの推進）

広域交通として鉄道と高速バスが存在しており、地域間路線として路線バス、地域内路線として市民バスがあり、これら異なる機能を持つ交通機関同士の相互連携により、乗継利便性の強化や路線情報の一元化をするなど、利用者が利用しやすい体制を構築することが必要である。

また、市内および地域間の交流を促進するためのまちづくりと連携した公共交通ネットワークの構築と交通結節点機能を強化していくことが必要である。

### ■公共交通の利用促進策



《事業者等の意見より》

- ・総合公共交通マップの作成
- ・決済に楽天 Edy を使用。(キャッシュレス決済の導入)
- ・位置情報通知システムの導入 (バスロケーションシステムや GTFS)

## 【課題⑤】交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

公共交通に関する市の財政負担は増加傾向であり、ニューノーマル等の社会情勢の変化により、生活交通のみで地域の公共交通を維持していくことは困難な状況である。

市民の移動に合わせ、来訪者の利用促進により、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少している利用者を回復させることが重要であり、交流人口を増やす観光イベントや集客施設等と連携した利用促進策を講じ、新たなニーズを獲得することで生活交通の一部を補完できる体制が必要である。

### ■市民バス収支状況

円		H29	H30	R1	R2	R3
収入	国庫補助金	7,593,000	11,400,000	12,884,000	13,653,000	14,538,000
	使用料収入	11,161,450	10,049,970	10,188,080	8,412,460	7,850,570
	広告料収入	516,000	647,000	182,000	652,000	779,660
	<b>収入等 計</b>	<b>19,270,450</b>	<b>22,096,970</b>	<b>23,254,080</b>	<b>22,717,460</b>	<b>23,168,230</b>
経費等	委託料	28,901,787	31,135,987	38,464,406	37,497,373	40,762,050
	修繕料	3,926,937	2,812,667	3,439,874	3,125,071	5,282,845
	<b>経費等 計</b>	<b>32,828,724</b>	<b>33,948,654</b>	<b>41,904,280</b>	<b>40,622,444</b>	<b>46,044,895</b>
<b>実質市負担額</b>		<b>13,558,274</b>	<b>11,851,684</b>	<b>18,650,200</b>	<b>17,904,984</b>	<b>22,876,665</b>
*利用者数		82,004人	72,456人	81,096人	69,163人	64,038人

\*注：市職員人件費、バス車両更新経費及び減価償却等の経費は未算入

## 2. 日向市地域公共交通計画策定に係る基本方針

### (1) 基本理念 (案)

地域公共交通の課題に対応する基本理念 (案) を以下に示す。

## 将来にわたり市民の暮らしをつなぎ、移動を支える 公共交通ネットワークの実現

### (2) 基本方針 (案)

(1) で挙げた基本理念を踏まえ、地域公共交通の課題に対応する方針を以下のとおり設定する。

#### 「課題」

- ① 高齢化の進展に伴う高齢者等の移動手段の確保
- ② 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化
- ③ 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築
- ④ 各公共交通機関の相互連携による利便性の向上 (MaaS の推進)
- ⑤ 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

#### 「基本方針」

- 1 公共交通の相互連携および機能分担による誰もが利用しやすい交通環境の提供
- 2 将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成
- 3 新たな公共交通サービスの導入による公共交通不便地域への対応
- 4 観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携
- 5 運行情報の一元化による利便性向上と利用促進の実施

## 参考資料（実施事業の事例）

### ■ AI を活用した乗合タクシーの運行【宮崎県延岡市】

- ・オンデマンド型乗合タクシー「チョイソコのおおか」が北浦町内において R4.11.1 より運行開始
- ・自宅近くから目的地までドアトゥドア方式で移動可能
- ・停留所までの移動が課題となる高齢者を中心に、町内での買い物や通院等の利便性の向上や路線バスとの結節による町外への移動を促進
- ・外出機会の創出による町民の健康増進、経済の活性化等を目的としている



### ■ 商業施設との連携したWAON決済システム【十勝バス】

- ・WAON カードがあれば簡単に決済が可能
- ・イオン系列の店舗への公共交通機関での来店を促進
- ・専用端末の設置が不要になるため、初期費用を抑えて導入が可能
- ・すでに流通している WAON カードが利用できるため、車載機を導入だけでサービスを開始可能
- ・店舗と同様にバス乗車時に WAON ポイント付与



### ■ 地域住民主体による運行【高知県須崎市】

- ・久通地区から近隣のスーパーや病院までは約 10 km、車で 30 分程度かかり、日常生活には車が欠かせない地区である。
- ・市営バス等の公共交通機関が運行していない久通地区では、市所有のワゴン車を貸与し、買い物や通院のために週に 3 回地元で運行している。

【運行日】月・水・金

【運行ルート】久通～須崎くろしお病院～高陵病院



### ■ 地元町会・タクシー事業者・行政の 3 者連携による取組み【千葉県柏市】

- ・利根町会において、町会（運行主体）、タクシー事業者（運行事業者）、柏市（運行支援）の 3 者で連携し、買い物に焦点を絞った乗合のコミュニティタクシー「とねっこタクシー」の実証実験を開始（R3.10.26～）。

【運行日】毎週火曜日 10：00

【運行ルート】①モラージュ柏コース（第 1,3,5 火曜日）

利根町会集合場所～モラージュ柏～利根町会内

②マミーMarkt柏根戸店コース（第 2,4 火曜日）

利根町会集合場所～マミーMarkt柏根戸店～利根町会内

